平成　23　年度事後評価・決算

事務事業マネジメントシート

平成　24　年　7　月　27　日時点

事務事業名	コード1	2105	いいおかユートピアセンター活動費	課	生涯学習課			
				所属班	社会教育班			
	コード2		【2100管理費含む】 ☐ 主要事業	電話番号	57-6060	内線	-	
政策体系 基本方針	4		心豊かな人と文化を育むまちづくり	予算科目	会計	款	項	目
施策	5		生涯学習の充実		一般会計	10	04	10
施策の展開	4		生涯学習講座の充実・人材育成	根拠法令	いいおかユートピアセンターの設置及び管理に関する条例・同条例施行規則			
基本事業	252		生涯学習講座の開催					

1　現状把握（Do）

（1）事業概要

① 事業期間	② 事業の内容　※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☑ 単年度繰返 ☐ 平成＿＿年度～ ☑ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成＿＿年度～ 平成＿＿年度まで ※全体像を記述⇒	各種講座・教室・主催事業の開催、一般・定期利用団体の使用申請の受付や許可、図書の貸出しや管理、旧町史や文化振興事業の入場券の販売、施設の維持管理など。 【業務の流れ】 ・施設の維持管理　通年 ・講座や主催事業：次年度開催予定の検討（10月頃）→講師及び講座内容の検討→公民館運営審議会で事業内容の審議→開催要項等の作成→受講生募集（新年度4月）→講座等の開催（5月以降）　・貸館業務　・図書貸出等

（2）トータルコスト

① 事業費の内訳（費目等）
報償費（講師謝金）
需用費（消耗品・燃料・電気・水道代等）
役務費（電話料・手数料・保険料）
委託料（清掃・警備・浄化槽・自動ドア・防災設備・電話設備等）
使用料及び賃借料（土地・事務機器等）

② 延べ業務時間の内訳
21年度　2,015時間×5名
22年度　2,015時間×5名
23年度　2,015時間×2名
24年度　2,015時間×2名

		単位	21年度（決算）	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（計画）	25年度（計画）	26年度（計画）
事業費 財源内訳	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	76,572	19,116	15,664	18,229		
	事業費計（A）	千円	76,572	19,116	15,664	18,229	0	0
人件費	正規職員従事人数	人	5.00	5.00	2.00	2.00		
	延べ業務時間	時間	10,075	10,075	4,030	4,030		
	人件費計（B）	千円	38,285	38,285	15,314	15,314	0	0
トータルコスト(A)＋(B)		千円	114,857	57,401	30,978	33,543	0	0

（3）事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段

① 主な活動

23年度実績（23年度に行った主な活動）
各種講座や主催事業の開催
施設の維持管理

24年度計画（24年度に計画している主な活動）
各種講座や主催事業の開催
施設の維持管理

⑤ 活動指標名

		単位	21年度（決算）	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（計画）	25年度（計画）	26年度（計画）
ア	講座数	講座	21	21	15	14		
イ	主催事業数	教室	9	7	2	3		
ウ								

目的

② 対象（誰、何を対象にしているのか）

市民

⑥ 対象指標名

		単位	21年度（決算）	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（計画）	25年度（計画）	26年度（計画）
ア	人口	人	70,138	69,749	69,223	69,223		
イ								

③ 意図（対象がどのような状態になるのか）

教養の向上や健康の増進につながるような講座を開催することにより、市民が健康でいきいきと、心豊かな生活を送れるようにする。

⑦ 成果指標名（考え方）

		単位	21年度（決算）	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（計画）	25年度（計画）	26年度（計画）
ア	講座参加者	人	428	416	357	292		
イ	主催事業参加者	人	2,126	1,375	93	530		

上位目的

④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか

講座等で知り合った仲間や、同じ趣味や嗜好を持った仲間達で、サークルや団体を作り、独自に活動できるようにする。

⑧ 上位成果指標名（考え方）

		単位	21年度（決算）	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（計画）	25年度（計画）	26年度（計画）
ア	サークル数		16	16	18	17		
イ	（　　）							

（4）事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？
市民が、生きがいを見つけ、充実した生活が送れるようにするため。	開始当初は、他団体や民間等で同様の事業を行っている団体は少なかったと思われるが、近年では、民間の団体や通信教育等の内容も充実してきている。（費用の問題あり）	住民から他の講座も実施してほしいとの要望あり。

事務事業名	いいおかユートピアセンター活動費 【2100管理費含む】	課名	生涯学習課	班名	社会教育班

2 評価（Check1）担当者による事後評価

目的妥当性評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☑ 結びついている ⇒【理由】 講座や、サークルに参加している人の中で、多くの方が、地域での活動やボランティア活動を、積極的に行っている。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☑ 適切である ⇒【理由】 全市民が対象である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☑ 妥当である ⇒【理由】 市で行っている講座の内容によっては、民間のカルチャーセンター等でも行っているが、参加するには、かなりの決意と費用が必要になる。しかし、市が主催する講座であれば、気軽に参加でき、気に入れば長期にわたり活動することが可能である。
有効性評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☑ 妥当である ⇒【理由】 企画した講座全てで、半数以上の参加者があり、講座によっては、定員を遥かに超えている。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するとどうか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☑ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 講座内容や教室運営の方法を検討しながら、自主活動できるグループや人材を育成することを続けているが、限界を感じている。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☑ 他に手段がある (1) 事務事業名：（ ） (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☑ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 同じ内容の講座であれば、他施設の講座を紹介している。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑦ 事業費の削減余地（表面トータルコストの事業費部分） 事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☑ 削減余地がない ⇒【理由】 講座や、主催事業の見直し等により、毎年削減に努めているが、そろそろ限界に近いと思われる。
	⑧ 人件費の削減余地（表面トータルコストの人件費部分） やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☑ 削減余地がない ⇒【理由】 臨時職員を活用しながら、正規職員2名で業務を行っているが、中央公民館方式に完全移行したとしても、正規職員は必要だと思うし、2名では足らないくらいだ。
公平性評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☑ 公平・公正である ⇒【理由】 主催事業によっては、対象者を子供だけとか親子とかに限定する場合もあるが、それ以外は、公平性を欠いているとは思えない。

3 評価（Check2）担当課長による評価結果と総括

（1）1次評価者としての評価結果

① 目的妥当性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
② 有効性	☐ 適切	☑ 見直し余地あり
③ 効率性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
④ 公平性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり

（2）全体総括（振り返り、反省点）

23年度は東日本大震災の津波により大きな被害を受けたが現在は復旧し通常に利用できる。施設も他の公民館より比較的新しく昨年度エレベーターも設置され高齢者にも配慮された施設になっている。現在はセンターの予備的な駐車場として利用されていた海岸駐車場が震災復旧工事で利用できず、多人数を集めるイベントが開催できない状況で、効率的な運営に支障が出ている。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（Plan）

（1）今後の事業の方向性（複数選択可）　※2～3年後を目処にした方向性

☐ 目的再設定
☐ 事業のやり方改善による成果向上
☐ 事業のやり方改善による事業費削減
☐ 受益機会の適正化
☐ 廃止・休止
☐ 行政関与の見直し
☑ 事業統廃合・連携（関連事業：　）
☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
☐ 費用負担の適正化

（2）改革改善案について　※いつまでに、なにを、どうするのか？

①海岸の災害普及工事が終了すれば駐車場が確保され多人数でのイベントに有効活用ができる。
②
③
④

（3）改革・改善による期待成果
（廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト 削減	コスト 維持	コスト 増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

（4）改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策

①震災前と同様に、海岸の駐車場を使えるようにしてほしい。
②
③
④